



TITLE:

# 金輸出再禁止後の財界と財政

AUTHOR(S):

汐見, 三郎

---

CITATION:

汐見, 三郎. 金輸出再禁止後の財界と財政. 経済論叢 1932, 34(2): 370-386

ISSUE DATE:

1932-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130144>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第

卷四十三第

行發日一月二年七和昭

## 論叢

政府の營繕購品制度 . . . . . 法學博士 神戸 正雄

蓄積理論の一考察 . . . . . 文學博士 高田 保馬

人間學的社會哲學 . . . . . 文學博士 米田庄太郎

## 時論

金輸出再禁止後の財界と財政 . . . . . 經濟學博士 汐見 三郎

## 研究

我が國の都市經費と都市人口 . . . . . 經濟學士 小山田 小七

大量觀察代用法に就いて . . . . . 經濟學士 蜷川 虎三

歴史的發展に於て見たる世界不況 . . . . . 經濟學士 松岡 孝兒

助郷制度に就いて . . . . . 經濟學士 黒羽兵治郎

## 說苑

恩師シヤンツ教授を悼む . . . . . 法學博士 神戸 正雄

瑞西の穀物專賣制 . . . . . 經濟學士 八木芳之助

小賣企業に於ける棚卸見切賣出 . . . . . 經濟學士 大塚 一朗

## 附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁 轉 載）

時

論

金輸出再禁止後の財界と財政

沙 見 三 郎

第一 金輸出の禁止と兌換停止

濱口内閣成立以來、昭和五年の初めに至るまでの我國民經濟の動きは、金輸出解禁と兌換恢復とへ向つての努力であり、更に昭和五年初めより昭和六年までの二ヶ年にわたる濱口内閣、若槻内閣の努力は實に我が金本位制を維持せんとするに存してゐたのである。而も昭和六年十二月に於ける政變に基き、犬養内閣が成立し、其結果として金の輸出は再び禁止せられ、日本銀行券は不換紙幣と化し、茲に我が金本位制は對外的にも對內的にも維持し難きものとなるに至つたのである。昭和六年十二月十三日の大藏省令は

金貨幣又ハ金地金輸出取締ニ關スル件(大藏省令第三十六號)

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

地金トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ金貨幣ヲ蒐集、鑄造シ又ハ毀損シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

と規定して金の輸出を禁止したのである。更に昭和六年十二月十七日の緊急勅令は

昭和六年十二月十七日勅令第二百九十一號

日本銀行ハ當分ノ内大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ヲ除ク外兌換銀行券ノ金貨兌換ヲ爲スコトヲ得ス

朝鮮銀行ハ當分ノ内大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ヲ除ク外朝鮮銀行券ノ金貨引換ヲ爲スコトヲ得ス

臺灣銀行ハ當分ノ内大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ヲ除ク外臺灣銀行券ノ金貨引換ヲ爲スコトヲ得ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

の規定を設けて日本銀行券の兌換停止を始めとし其れに關聯深き朝鮮銀行券及び臺灣銀行券の金貨兌換を停止する趣旨を明らかにしてゐる。昭和七年一月より二ヶ年前の昭和五年一月を回顧して見ると、金輸出解禁と兌換恢復とへの努力が遂に水泡に歸し、今や我國民經濟は金輸出禁止と兌換停止とを再び繰返してゐるわけである。

英國が金本位を停止した事が、圓の海外逃出を促す最初の導火線となつたのである。英國が金本位を停止した當時即ち昭和六年九月二十一日の日本銀行の帳尻と、金輸出禁止後の今日即ち昭和七年一月十五日の日本銀行の帳尻とを比較すると、次の數字を得る事が出来る。

	昭和六年九月廿一日	昭和七年一月十五日
兌換銀行券發行高	九二七、六三五 <sup>千四</sup>	一、〇二六、〇三五 <sup>千四</sup>
正貨準備高	八一七、三二四	四六九、五五二

金輸出再禁止後の財界と財政

發行餘力	九、六八九
限外發行	四三六、四八三

僅か四箇月足らずの間に日本銀行の正貨準備高が八億千七百萬圓より約三億五千萬圓減少して四億六千九百萬圓となつた事は驚くべき事實でないか。而して昭和六年九月二十一日には九百萬圓の發行餘力ありしものが、昭和七年一月十五日には四億三千六百萬圓の限外發行を示してゐるのである。然らば何故にかゝる巨額の正貨が流出したのであらうか。國際貸借に最も重大なる項目を占むる外國貿易を見るに、昭和五年と昭和六年とに於ては次の如き輸入超過の數字を示してゐるのである。(單位千圓)

	内地及樺太			帝國(内地・樺太・臺灣・朝鮮・南洋)		
	輸出	輸入	輸入超過	輸出	輸入	輸入超過
昭和五年	一、四六、八五三	一、五四六、〇五二	七六、一九九	一、五二八、六四四	一、六八〇、二九四	一六二、六六〇
昭和六年	一、四一、七〇三	一、五三三、四〇〇	八八、三三七	一、一七九、二九四	一、三一九、一三三	一五九、八三九

外國貿易の輸入超過額は昭和五年と昭和六年とを合するも三億圓にすぎず、而も此等の輸入超過の數字は輸入額(CIF)と輸出額(FOB)との計算の方法が違つてゐる關係により實際はもつと少いわけである。従つて昭和六年の最後の三箇月間に突然流出した正貨なるものは、過去數年

間の輸入超過額に當る巨額のものである。昭和五年の金輸出解禁の時には、僅かの入超過にも神經を尖らし萬一の用意の爲めにわざわざ海外にクレヂットを設定して急場をしのいだ程であつた。時局の重大なる事に於ては昭和六年末は昭和五年初めより優るとも劣つてゐない。時局重大にして海外にある正貨でも本國に取寄せねばならない時に當り、我が數年間の入超過に當る數億圓の正貨が短日月の間に我國を去り、此の意味に於て舉國一致を缺いた事は、其の責任が何人に歸するかは暫く問はず、誠に遺憾なる事實である。更に驚くべきは、恰も國家非常の此の際に株式は一時は天井知らずであり、日用必需品には昂騰の傾きあり、犬養景氣なる言葉が製造せられてゐる始末である。外には重大事變あり、内には正貨激減し兌換停止のやむなきに至つてゐるのに、果して何所に眞の景氣が生れたものであらうか。

金の輸出再停止に關する是非の議論は、今更繰返へすも詮なき事である。金の輸出が禁止せられ日本銀行券の兌換が停止せられてゐるのが現實の姿である。而して犬養景氣なるものにより國民の一部分が巨額の利益を得てゐるのも事實である。此の時期に當り我が財界と財政とは如何なる方向に進むべきものであらうか、これ國民の冷靜に考慮すべき問題である。

## 第二 金輸出禁止後の財界

金輸出再禁止に伴ひ最も著しくなつた現象は爲替相場が激落した事と株界が活況を呈してゐる

事とである。素材價值を有する正貨の少なからざる部分が海外に遁れ然る後に金輸出を禁止し兌換を停止したのであるから、株界の活況なるものも要するに兌換銀行券より素材價值を奪つて不換紙幣となしたる事に其の基礎を有してゐるのである。爲荷相場下落によつて始めて齎らされたる株界の好況が決して本物の好景氣でない事は誰しも異論のない所であらう。恰も外には滿洲事變を控え、内には無理をしても好景氣を將來せしめんとする聲がある、兌換紙幣ならば金に拘束せられて一定の限界以上には發行せられないのであるが、素材價值を有せざる不換紙幣が行はれてゐる今日に於ては此の時勢の要求に應じてインフレーションに導かれる傾向が強いのである。従つて爲替下落と正確に歩調を共にしないが、物價は大體に於て騰貴の趨勢を示さざるを得ないのである。從來は下落の一途をたどりし日用品物價は逆に高騰に轉じつゝある有様にある。爲替が下落して物價が騰貴する處に各人の經濟的利害關係の衝突が生れてくるのである。

外國爲替相場下落及び國內物價の騰貴により直接に惡影響を蒙むるのは確定收入を貨幣價格で受けてゐる人々である。其の元利が圓貨で示されてゐる公債社債を有する人、銀行預金郵便貯金を有してゐる人、生命保險契約に加入してゐる人は、この急激なる財界の變動に基き大なる損失を受けるのである。餘分の金額を此等の證券に投じてゐる人にとつては多少の物價變動も忍ぶ事が出来る。然し多年辛苦して保險料を支拂ひ、いざ不幸の際に保險金を受取るとなると其の購買力が減退してゐるとか、又小錢を郵便貯金又は證券に集中した人が損失を蒙むるとか云ふが如き

は、社會生活上で最も悲しむべき現象である。確定利付證券なるものは一應の利廻りは少きも、安金確實なる點に其の特色を有してゐる。然るに、圓價を下落せしむる事によつて、確定利付證券の實質價值を低下し、返つて從來不確定なりと信ぜられてゐた或種の株式の價值を釣上げる結果となるのである。かかる現象は將來の金融界に大なる暗影を投ずるものである。

第二に物價騰貴に苦しむ者は俸給生活者と労働者である。俸給生活者及び労働者の生活に直接に響くのは、原料品の卸賣物價でなくして、日用品の小賣物價である。而して日用品の小賣物價なるものは卸賣物價の騰貴に先走つて上昇する傾向がある。然るに、勞銀又は俸給の増加は卸賣物價の騰貴に遅れてくるのが常である。従つて物價騰貴は此の意味に於ては、俸給生活者と労働者との生活を壓迫する事となる。或は物價騰貴は失業を減するが多に多少の生活難は之を忍ぶべしと云ふ説がある。一應の眞理として是を承認する事が出来る。然し眞に財界が恢復して而して物價が騰貴し始めた時には、かかる事を明確に主張し得るのであるが、單に貨幣より素材價值を奪つた場合の如きは、近く來るべき反動に關聯して一層大なる失業の起る事を豫想すべく容易に樂觀を許さないのである。大正七年の物價騰貴の時に米騒動が我國に起り、又金本位停止後の英國に労働爭議が熾烈となつた如き事實を此の際冷靜に反省する必要がある。此の點に於て最も苦しき事情にある者は官公吏であらう。國家公共團體の財政は豫算に縛られ物價騰貴に添ひ難き事情にあり、従つて最も壓力の弱き人件費は其儘に打ち棄てられる事となる。即ち爲替安による



物價騰貴は、實業界に於ける勤勞所得者に對しては好影響と惡影響との二つを與へるのであるが、官公吏に對しては生活の壓迫と云ふ惡影響のみを及ぼす事となる。

以上は確定利付證券を有する人及び勤勞所得者に及ぼす物價騰貴の影響である。然らば何人が確實に利益するかと云ふに、外國貨幣及び外國貨物の思惑買入れをしてゐた人であつて、その以外の人々に就いては容易に其の利害を判斷する事が出来ないのである。否、外國貨幣及び外國貨物の思惑をしてゐた人も今後財界の動搖が烈しくなつてくると、或は從來の利益をそのまゝ維持し得るか否かが疑問となる。よく金輸出再禁止の結果として、消費者は一應は損失を蒙むるが、生産者の利益が甚だ大にして一國全體としては生産者の利益がやがて消費者の損失をも補充し、結局財界に好い影響を與ふるのであると議論する人がある。これ又一面の眞理を穿つてゐるが、次の如き理由により生産者も必ずしも利益しない事がある。

一、生産者の利益を主張する人は物價の騰貴が對內的に好景氣を齎らすと云ふ點にその論據を置いてゐる。然し一般論として考へて見るに今回の物價騰貴は輸出貿易の振興の結果でもなく、又正貨流入の結果でもなく、寧ろ正貨流出の際に起つた現象である。かくの如き社會一般の購買力を伴はない物價騰貴は決して好景氣を持続せしむるものではない。更に物價騰貴の程度が區々に流れてゐる事も注目すべきである。先づ第一に物價騰貴の鋭敏に響くものは輸入品の價格である。次に騰貴するのは輸出品であるが、必ずしも爲替下落の程度だけ反比例的に騰貴するのではな

い事は、我が生絲の示す處である。果して然りとせば爲替下落の利益は輸出品に就いては外國人に奪取せられてゐる事となるのである。かくの如く生産者内部に於ても利害關係が必ずしも一致しないのである。更に將來に就いて考ふるに、輸入品の物價が高くなり、其他の物價が高くなり生産費が全體として高くなれば、生産者の得る處の利益は激減するのである。故にストックの値上りで喜んでゐる人達も其利益を一時的のものと見込むべく決して永遠に期待してはならない。

二、生産者の利害を一國全體の利益と結び付けて考へる人は金輸出再禁止の好影響を二方面に於て説明するのである。第一の爲替下落の結果として輸出が増加し、輸入が減少し、貿易上の國際收支が改善せられると云ふのである。第二には從來外國に逃避し、又は投資せられてゐた資金が爲替下落の結果として國內に復歸し、貿易外の國際收支に於ても良好なる結果を齎らすと云ふのである、然し現今の如く、圓貨の對外價值が動搖定まりなく、對米爲替に就いて見るも金輸出再禁止後約一箇月間に四十弗、三十弗、三十八弗、三十六弗と極めて不規則なる數字を示してゐる際に於ては、貿易及び貿易外の國際收支に於ては却つて論者の豫期せし處とは反對した結果を示すものである。第一の貿易に基く國際收支を見るに、爲替が下落して止まざる限りは、輸入の刺激となり、やゝもすれば輸入額が増加し、更に輸入超過が爲替を一層下落せしむる事となるのである。一方、輸出の方面を見るに、物價の騰貴が爲替の下落の程度に及ばざる限り輸出が増加するが如く見えるが、外國が不景氣であるが爲めに更に又、外國の關稅引上げ、特に爲替ダンピング

關稅のために輸出が阻止せられるのである。かくして爲替の亂高下により、貿易が實業を離れ、投機化する事のあるのは免れ難い處である。第二の貿易外の國際收支を考ふるのに、爲替下落の底が分つてこそ、資金を外國より國內に呼び戻す考へも起るが、爲替の亂高下の時には餘程の事情のない限りは資金の國內復歸が望めない、否、逆に資金の海外逃避の勢が助長せられる事もあるのである。

要するに金輸出再禁止に基く爲替下落及び物價騰貴なるものは、單に確定利付證券の所有者及び勤勞所得者に利益を與へざる事あるのみか、最も利益大なりと稱せらるゝ生産者にも往々にして損失を與へる事がある。而してその惡影響の原因は主として爲替の不安定及び物價の亂高下に存してゐるのである。爲替を安定せしめ、物價を安定せしめ、國際貸借と改善を圖る事は金輸出再禁止後の我國財界にとり最も注目すべき任務である。

### 第三 金輸出禁止後の財政

犬養內閣は昭和六年十二月中旬に內閣を組織したのであるから、豫算を新たに編成する餘日もなく、大體に於て若槻內閣の豫算をそのまゝに踏襲したのである。唯、原則として掲ぐる處は犬養內閣と若槻內閣と全く異つてゐるから、以下若槻內閣が編成せし豫算と、犬養內閣が編成せし豫算を比較對照し兩者の特色を明らかにしたいのである。

昭和七年度總豫算案の比較（單位千圓）

歳入 増 公債 歳出 臨時部 減債基金繰入額	若槻内閣		犬養内閣	
	歳入	歳出	歳入	歳出
	一、四七九、九〇三	一、四七九、九〇三	一、三九七、〇九五	一、三九七、〇九五
	四〇、〇七〇	?	一二三、五二九	一二三、五二九
			一、三九七、〇九五	一、三九七、〇九五
			一、一四一、三四四	一、一四一、三四四
			二五五、七五一	二五五、七五一
			一八、五五九	一八、五五九

算の外の相當巨額の費用を追加豫算に豫定せる事は一例へば滿州事變費追加豫算として二千百萬圓を要求せるが如き——積極的に豫算を膨脹せしめる結果となつてゐる。故に一見した所では犬養内閣の豫算は若槻内閣の豫算に比し形式的には少くなつてゐるが、實質上には可なり膨脹してゐるものである。

犬養内閣は豫算の編成に際し次の三方針を示してゐる。

第一 財界の不況に伴ひ歳入は著しく減少したこと

第二 減債基金の繰入を一部中止したこと

金輸出再禁止後の財界と財政

犬養内閣の豫算案は總豫算に於て若槻内閣の其れに比し却つて減少してゐる様に見える。然しこれは歳出に於て減債基金繰入額を減じ歳入に於て増税を取り止めた結果である、否は、若槻内閣が行はんとせし行政整理を一部中止してゐるは消極的に豫算を膨脹せしめ、更に此の本豫

### 第三 歳入歳出差引き差引の不足は公債を以て補填したること

第一の財界の不況は可なり大なる影響を租稅收入に與へてゐる。酒稅が一億七千五百萬圓、專賣局益金が一億七千萬圓、所得稅が一億萬圓と云ふ慘めな數字である。此經常收入の減少を如何に補填すべきかが重大なる問題となるのである。

第二の減債基金繰入額は、本來は前年度首に於ける債務額の萬分の百十六であつたのを、片岡大藏大臣の時に更に其の上に前年度剩餘金の四分の一を加へ、更に井上大藏大臣の時に獨逸賠償金をも一時繰入れた時もあつた。然るに犬養内閣では前年度首の公債現在高の萬分の百十六を三分の一に減じて減債基金に加へ、剩餘金の四分の一は全部之を繰入れない事としたのである。其の結果として一般会計に於ては減債基金の繰入高を既定額四千九百萬圓より千八百萬圓に減じ一般会計、特別會計を通じて七千三百萬圓を二千六百萬圓に改めたのである。

第三は歳入缺陷補填の問題である。犬養内閣は行政整理の一部を停止し、返つて積極的施設を豫算に織込まんとしてゐるから、若槻内閣よりも歳入缺陷が大となる筈である。而して若槻内閣は比較的小なる歳入缺陷を増稅と公債とで支辨せんとしてゐたのに、犬養内閣は此の比較的大なる歳入缺陷を全部公債で支辨せんとするのであるから、公債の増發は避け難き處であらう。

世間には往々にして金輸出再禁止後の物價騰貴の結果として、赤字が全部消滅し、財政が樂にやつて行ける様に考へてゐた人があつたが誤つてゐる。此の點に關しては經費と收入との兩方面

より考察を進める心要がある。

収入の重要なものは租税であるが、物價騰貴は直ちに租税収入の増加となつて表はれてくるものではない。所得税、營業收益税等は前年度の實蹟に基き課税するものであるから、昭和七年度には寧ろ昭和六年度の物價が響くのである、酒税は從量課税であるから、酒價が騰貴した所で造石高が増加せざる限り影響がない。又地租は寧ろ減税となり、煙草專賣局益金も現在の煙草の値段を維持してゐては原料高の爲めに收つて却入が減ずるかも知れない。従つて昭和七年度の租税収入は大なる變動を示さず逆に昭和六年度のそれよりも減少するに至るのである。國家の經常収入の中で増すべき見込みがあるものは租税では兌換銀行券發行税、取引所税、織物消費税等であり、又營業収入の中の森林收入である。

之に反し經費の側に於ては爲替相場の下落により、外貨債の利拂高が當然に増加し更に物件費も必然的に増して來るのである。又物價の騰貴の程度が甚だしくなれば、人件費と云へども相當の増加を示す事を覺悟せねばならぬ。現在のまゝで進んでも、又多少の行政整理を行つてみた處で、全體としては經費の増す事があつても減する事がない。況んや豫定の行政整理を打ち切り、積極政策に移るとせば經費は益々膨張せざるを得ないのである。

經費が増加し、収入が減するものとせば財政は均衡を失し、其の赤字は必然的に増税か公債かによつて之を補はねばならぬ。而して犬養内閣は其の不足を總べて公債で支辨せんとしてゐるの

である。然し爲替が亂高下して下落の程度が判明せざる今日に減債基金繰入を一部中止してまでも巨額の公債を財界に送つた處で、果して財界が之を消化し得るか否かゞ問題である。昭和七年度に於ては大藏省預金部又は日本銀行に巨額の公債を引受けしめて多少の無理をして行かれるかも知れないが、昭和八年度以後に於て果して此の政策を維持し得るや否や疑問である。増加したる公債の利子支拂にあてゐるためには必ず經常財源を必要とし、結局増税をなすの已むなきに至るのである。即ち犬養内閣の公債萬能政策なるものは今年一年限りのものであつて、寧ろ將來に於ては増税計畫を豫想せしむるものである。若し公債の利子をも又公債で支辨して行く事となると、公債の發行は止む處を知らず、通貨は膨張して國家の信用を害し、爲替相場は益々下落して財界の惡化を齎らす事となるのである。尙ほ最後に注目すべきは滿州事變の發展が我財政に及ぼす影響である。滿州事變に要する經費の金額及び内容の如何によりては之が支辨方法を公債のみに求むるか、或は増税を併用するかを決定せねばならぬ。

#### 第四 財政と財界との將來

犬養内閣が財界に於て物價の騰貴を齎らし財政に於て積極政策をなし得る事は、實はその前に物價の下落があり、又財政の緊縮が行はれたからである。同一の論法を以て將來を考ふれば、犬養内閣の積極政策も緊縮政策に轉回し、更に犬養内閣の財界振興策も遠からずして財界鎮靜政策

に變化せざるを得ないのである。これが財政及び財界に對する政策の常道である。從て金輸出再禁止、爲替下落、物價騰貴の順序を踏み、變動したる富の分配は或る一定の限度に達すれば更に金輸出解禁、爲替騰貴、物價騰貴により再び調整せられた事となるのである。而してインフレーションによる富の分配の變動の幅が大となり、其の摩擦によつて國民經濟の失ふ處が大となるのである。財界及び財政に對する常道論よりすれば、なるべく摩擦を少くし、損失を避けねばならない。

此の財界及び財政の常道論も時の勢としては實現出來ない事があり得るのである。公債の利子を支拂ふために更に公債を發行し、又生産費の騰貴による事業の經營難を救ふために、更に不換紙幣を濫發する時には、爲替相場下落と物價の騰貴とは止まる處を知らないのである。現に貨幣價值を下落せしめ、物價を騰貴せしめ以て社會の機構を亂し、中産階級を全滅に近からしめた例は世界大戰後より大正十二年に至る獨逸に於て之を見る事が出来る。當時の獨逸に於ける貨幣の下落が各方面に及ぼしたる影響は次の表により之を明らかにする事が出来る。

獨逸に於ける貨幣價值下落の狀況\* (大正二年を一とす)

	マルク建ドル相場	卸賣物價指數	生計費指數	株價指數
大正二年	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
大正三年	一・〇	一・〇	?	?

\* Zahlen zur Geldentwertung in Deutschland 1914 bis 1923 (Sonderhefte zu Wirtschaft und Statistik)



大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年一月	大正十二年十二月
一・一	一・三	一・五	一・四	四・七	一五・〇	二四・九	四四九・二	四、二八一・〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇・〇
一・四	一・五	一・七	二・一	四・一	一四・八	一九・一	三四一・八	二、七八五・〇	一、三三三、〇〇〇、〇〇〇・〇
?	?	?	?	?	一〇・四	一三・三	一五〇・三	一、一二〇・〇	一、二四七、〇〇〇、〇〇〇・〇
?	?	?	一・二	一・〇	二・〇	四・三	二〇・五	二二四・〇	二六八、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇・〇

尙ほ大正十二年十二月に於ては大正二年に比し次の數字を示してゐる。

食料費は一、五二二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇倍

熟練労働者の給料は六九四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇倍

不熟練労働者の給料は七八九、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇倍

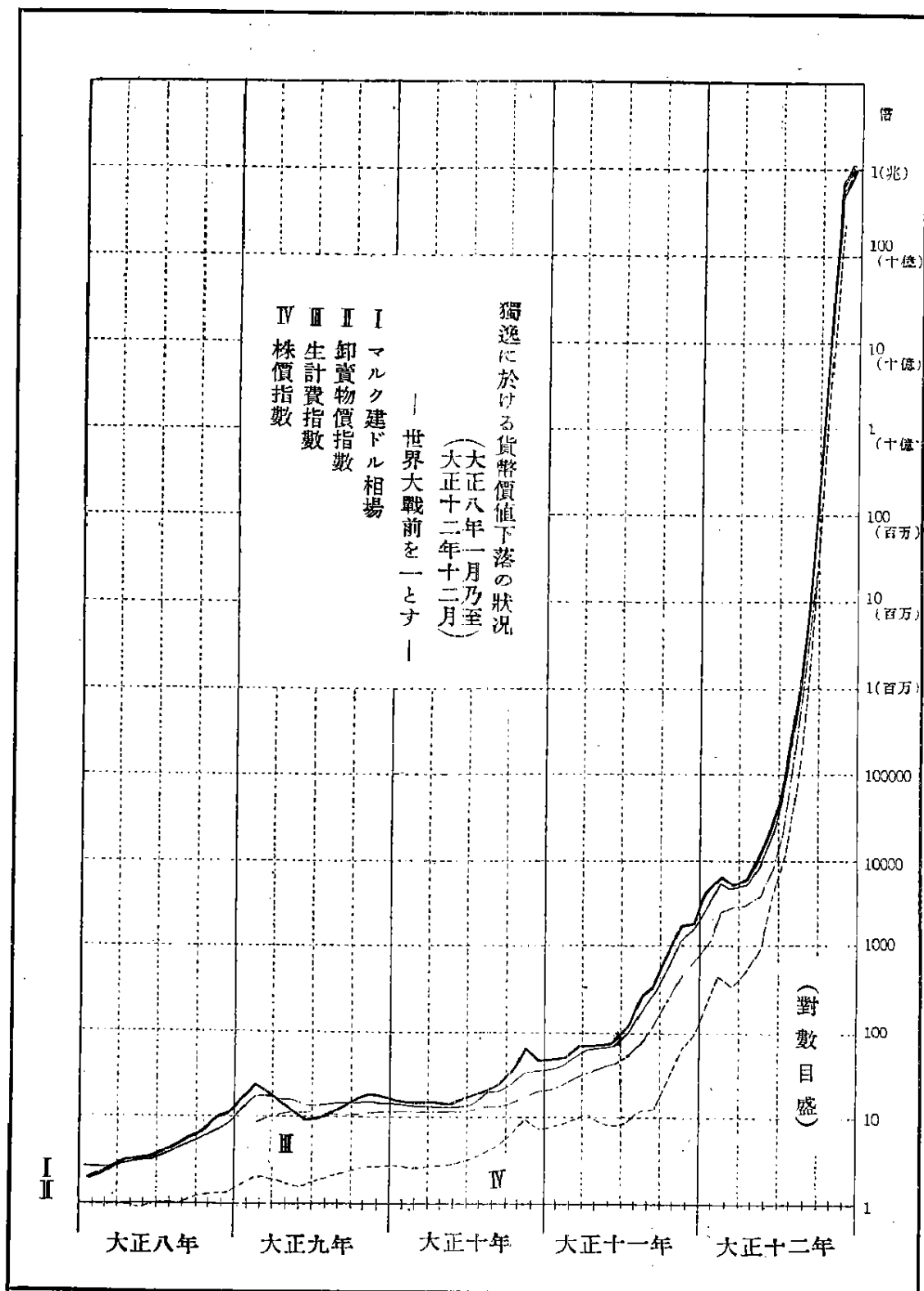
高等官の俸給は五〇九、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇倍

兌換停止及び金輸出禁止の下に於て積極政策を强行する、爲替相場が落ちる、物價が騰貴する、不換紙幣を印刷する、爲替相場が更に落ちる……と云ふ風に巡り巡つて凡ての經濟界の數字に零を増し、典型的のインフレーションを現出したのである。即ち世界大戰前に比し、労働者の賃銀

は約七八千億倍となり、官吏の俸給は五千億倍となり、株式の価格は二千七百億倍となつたが、

金輸出再禁止後の財界と財政

第三十四卷 三八五 第二號 七五



他方に卸賣物價も生計費も一兆二千億倍となつたから、社會の安定は全く破壊し盡されたのである。結局マルクを一兆分の一に切下げて始めて安定が保ち得たのである。然し一兆分の一の處でマルクを安定せしめた時には、極端なるデフレーションが行はれ、財界は大なる苦痛を嘗めたのであつた。

現在の我國は當時の獨逸とは趣きを異にしてゐるから、當時の獨逸を以て現今の日本を律するのは全くの杞憂であらう。然し金の輸出を禁止し、兌換を停止してゐる時には動もすればインフレーションの誘惑にかゝりやすいものである。金の輸出が自由であれば財界に對する放漫政策は金の流出により牽制せられるし、兌換維持の際に巨額の公債を中央銀行に引受けしむる事は兌換請求を虞れて之を遠慮せねばならぬ事となる。然るに兌換を停止し、金輸出を禁止してゐると、當分の間は何物にも脅されないのである。其の結果として社會の各方面の要求に應じ不換紙幣の印刷能力を大にして財政と財界とを踊らす事となり易いのである。貨幣制度の確立こそ財界及び財政を匡正する第一條件である。此の意味に於て我が國民は數年前の獨逸を反省せねばならぬ。

金輸出禁止後に於て金本位制の復歸を標的とせば爲替を安定する方策を講ぜねばならぬ。爲替の安定は公債萬能主義や中間景氣煽揚策の如き容易なる方法により之を期するを得ない。爲替の安定は國際貸借の改善、通貨の收縮、財政の收支の實質的均衡により始めて之を實現出来るのである。